

醸造用ぶどうのつるが黒く割れるのは、細菌による病害です。

概要 Abstract

2009年秋、醸造用ぶどうでつるが裂けて黒変し、果実にかいよう症状が発生して収穫できない病害が多発しました。

- 1) この病害は、当初、かびによる「つる割病」とされていましたが、原因はかびではなく細菌であり、国内で初めて発生した「ブドウつる割細菌病」であることを明らかにしました。
- 2) この病害はすでに道内の醸造用ぶどう産地の多くで発生しています。
- 3) 道内の主力品種である「ケルナー」、「ツヴァイゲルトレーベ」、「セイベル5279」は比較的この病害が発生しやすい品種と考えられます。
- 4) 銅（塩基性硫酸銅58%（銅38%））水和剤の800倍液散布により病気を抑える効果が認められました。



①葉の斑点症状



②つるのかいよう症状



③花穂の黒変症状



④幼果のかいよう症状

成果 Results

- 1) この病害は細菌による国内新発生の病気であり、新たに名前を「つる割細菌病」と提案しました。（かびによる「つる割病」とはまったく違う病害です。）

- 2) ポット苗への接種試験により病気への強さに品種間差があることが示されました。

ぶどうポット苗におけるつる割細菌病発病程度

品種名	発病率(%)	
	2012年	2013年
セイベル5279	23.8	49.6
ツヴァイゲルトレーベ	17.7	47.6
ケルナー	21.7	42.1
ローター・グーテデル	17.1	33.8
セイベル13053	15.8	30.7
ミューラー・トルガウ	11.4	34.4
ユヴェール	7.3	30.8
カベルネ・ソーヴィニヨン	3.9	26.0
ドルンフェルダー	3.2	25.6
ピノ・ノワール	0.7	21.2
リースリング	2.6	18.5
アルモノワール	1.2	9.9
キャンベル	0.0	7.6
MHアムレンシス	0.0	2.6

発病率：9株×3反復の平均値

この病気の特徴

- ①葉の斑点症状（中心が褐色で周辺が黄色）
- ②つるの黒いかいよう症状（やがてつる割症状となる）
- ③花は黒変して腐ってしまう
- ④幼果には黒いかいよう症状が出て、熟さず腐る

- 3) 銅水和剤（塩基性硫酸銅58%（銅38%））800倍液を6月下旬から8月上旬まで約10日間隔で7回散布することにより、つる割細菌病の防除効果が認められました。

つる割細菌病に対する銅水和剤散布の効果(2011年)

品種	処理	8月12日		9月21日
		発病率(%)	発病率(%)	防除価
ケルナー	散布区	0.4	1.2	97
	無散布区	15.4	40.7	
ツヴァイゲルトレーベ	散布区	0	0.6	89
	無散布区	6.9	5.6	

普及 Dissemination

- 多雨・冷涼な気象となるなど、つる割細菌病発生の恐れがある場合は、銅水和剤の散布を行ってください。
- 薬害防止のため、銅水和剤は炭酸水素カルシウム水和剤を混用して使用して下さい。
- 散布にあたっては気温の高い時間帯を避け、他の殺菌剤や殺虫剤とも混ぜない方が安心です。

連絡先 Contact

中央農業試験場
 病虫部 予察診断グループ
 0123-89-2001
 central-agri@hro.or.jp